

法やきまりについて学んだこと



私たちの社会には、国で作られた法律、都道府県や市町村で作られた条例などがある。また、学校や学級のきまりを守って、学校生活を送っている。

法やきまりは守らなければいけないと分かっているけど、忘れてしまったり、どこか反発したくなったりすることはなかっただろうか。

- 法やきまりについて学んだことや、生活のいろいろな場面で知ったこと、感じたこと、考えたことを書いてみよう。

(1) 法やきまりを守り社会で共に生きる

人間は誰にでも、自由に幸せを求めて生きる権利がある。しかし、ときとして、

自分の権利と他人の権利とが対立することがある。

私たちの社会は、

一人一人の支え合いがなければ、成り立たない。

そのため一人一人の権利を保障するとともに、

それぞれが果たすべき義務を明らかにしたり、

対立を未然に防いだり、解決したりする方法として、

法やきまりを生み出してきた。

法やきまりの意義を理解した上で、

互いに権利を尊重し、

安全で安心して暮らせる社会を実現するために、

一人一人が果たすべき役割を考えていきたい。



権利と義務って何だろう

法やきまりは、
人々の権利を守り
みんなで社会を支え合うために、
義務として「しなければならない」ことや、
「してはならない」ことを定めている。



- 一人一人が義務を果たさなかったり、自分の権利と他人の権利が衝突したときにきまりがなかったりしたら、どのようなことが起こるだろうか。身近な法やきまりを例に考えてみよう。

より良い社会を目指して

私たちの先人は、皆が快適に暮らせるための方法を話し合い、合意し、法やきまりとして定めてきた。そして、それを守ると同時に、時代の変化に応じて、より良いものに変えてきた。

法やきまりは、私たち自身のものであるという自覚をもち、しっかりと守った上で、より良いものに見直していくことも、私たちの大切な役割である。

- 私たちの身の回りのきまりについて、生活の変化に対応するために、見直すべきものがあるかどうかを話し合ってみよう。

社会の秩序と規律



一つの楕円のボールをめぐる、
激しくぶつかり合うラグビー。
みる者はグラウンドで展開される
迫力と緊迫のゲームに興奮し、感動する。
激しくボールを奪い合った選手たちが
たった一吹きホイッスルで攻防を解き、
さっと二手に分かれる。
ルールを守る姿と
互いを尊敬し合う精神がここにある。

ルールがなければラグビーは単なるボールの奪い合いとなり、
競技として成り立たないばかりか、
観戦している私たちに感動を与えることもないだろう。
ラグビーでも、バレーボールでも、
サッカーでも、野球でも、
これは、スポーツ競技全てに共通する。
競技の中で、ルールは誰もが守るものと定められ、
もしこれに反する行為があれば、罰せられる。

法やきまりの意義

法やきまりを破ったら、刑罰を受けるだけではなく、相手に対する償いをする責任を負う。
また、そのことで自分や周囲の人のそれまでの生活が失われることもある。

- 法やきまりを守ることの意義について、考えたり話し合ったりしたことを書いてみよう。

saying

この人のひと言

義務心をもっていない自由は本当の自由ではない。

夏目漱石

■ なつめ そうせき (1867～1916)
小説家。『坊っちゃん』『それから』など。

法律の規定に触れさえしなければ
何をやっても可いという思想ほど、
社会に迷惑をかけるものはない。

吉野作造

■ よしの さくぞう (1878～1933)
民本主義を唱えた政治学者。

約束は必ず守りたい。
人間が約束を守らなくなると社会生活は出来なくなるからだ。

菊池寛

■ きくち かん (1888～1948)
小説家。『父帰る』『恩讐の彼方に』など。

● あなたの見付けた言葉、考えたこと。

message

メッセージ

サッカーの審判員は、時に「カードを乱発し荒れた試合となった」と、あたかも主審がゲームを荒らしたような言われ方をされることがある。

しかし、サッカー国際主審である西村雄一さんは言う。

「カードをもらうようなことをしてしまっただな、と選手が感じられるように接することができれば、選手はフェアプレーの心を出し、プレーに集中してくれるはず。ワールドカップでも、Jリーグでもジュニアの試合でも、カードに相当する行為に違いはないので、同じように対応する。そうすることで、その選手が、未来の大事な試合で同じような行為でカードをもらわなくなることにつながる。ですから、カードに相当する行為があつたときには選手の年齢やカテゴリーに関係なく、ちゃんとカードを提示することが選手のために大切です。」

西村さんは二〇一〇年FIFAワールドカップ南アフリカ大会で、ブラジル対オランダという強豪国同士の一戦で主審を務め、さらに決勝戦では万一のときに主審の代役を務める第四審判に抜擢された。スポーツは、しばしば社会の縮図として例えられることがある。守るべきルールがあり、それに反した行為は罰せられる。サッカーの主審は違反行為かどうかを判断するが、罰則を与えるかどうかは判断していない。「サッカーのルール」が違反に基づいて罰則を設定していて、主審はそのルールを施行しているのである。

「選手が守るべきルールは同じなので、プロであろうと、少年少女のサッカーであろうと区別なく同じ対応をする。」

同時に、西村さんは言う。

「その選手の人間性が悪いわけではありません。ただ、カードに相当する行為をしてしまっただけ。罰則を与えられるのはその『行為』であつて、その『人』ではありません。」



ワールドカップでも、
Jリーグでもジュニアの試合でも、
カードに相当する行為に
違いはない。

西村雄一

● 東京都出身。サッカーのプロフェッショナルレフリー（PR）。国際主審。小学校からサッカーを始める。指導をしていた子供のチームが審判の誤った判定により負けてしまい、悔しい思いをしている子供たちを見て「選手の夢をかなえる審判になろう」と審判員の道を歩み始める。● 会社員をしながらアマチュアの試合で審判活動を続け、1999年に1級審判員として登録、2004年にスペシャルレフリー（SR、現PR）。2010年のワールドカップでは4試合の主審を務めた。



ワールドカップで主審を務める西村さん

西村雄一（にしむらゆういち） 1972～

「駄目だと言ったら駄目だ。」

「どうしてですか。かわいいそうじゃないですか。僕、入れてあげますよ。」

「お前が言わないのなら俺が言う。そこをどくんのだ。」

立ちはだかる山田を押しつけて、佐々木は窓口に顔を出した。

「申し訳ございません。お客様。あいにくだった今、入場券の販売を終了いたしましたので、規則上お入れするわけにはまいりません。またの御来園をお待ちいたしております。」

高校生くらいだろうか、流行のファッションに身を包んだ二人組の若い女の子たちは、佐々木の言葉に不服な顔をしながらもきびすを返して去って行った。

この市営の動物園の入園終了時刻は、午後四時、今わずかに数分を回ったところだった。

「まったく、佐々木さんは頭が固いんだから、二、三分過ぎたからってどうしたって言うんですよ。今日はまだ随分客が入っているんですよ。」

「お前がかわいそうだと思う気持ちは分かる。しかしまあ待て、俺の話を聞いてくれないか。」
そう言う佐々木は、何かを思い出すかのように、ゆっくりと話し始めた。

何年前か、今お前がやっている入園係の仕事をしていた元さんっていう人がいたんだ。元さんは、定年までの数十年をこの動物園で働いていたんだ。その働きぶりは誰もが感心するものだった。ところが定年間に奥さんを亡くしてしまって、子供がいなかったものだから、話相手も身寄りもなかった。

その落胆ぶりは、見ても気の毒なくらいだったよ。「このまま職場を去ったら、何を楽しみに生きていこうかねえ。」元さんのいつもの口癖だった。しかし、

それまでの勤勉さと真面目さをかわれて、退職後も引き続き臨時で働かないかという話がち上がったんだ。元さんの生きがいが、またできたというわけだ。

確か学校が春休みに入った頃だな、きつと。毎日終了間際に、決まって女の子が弟の手を引いてやって来たんだ。小学校三年生くらいの子なんだよ。弟の方は、三、四歳といったところかな。いつも入場門の柵の所に身を乗り出して園内をのぞいていたんだ。時々弟を抱っこしてのぞかせてやったりしてね。そんな様子がほほ笑ましくて俺と元さんは顔を見合せて眺めていたよ。

そんなある日のこと、入園終了時間が過ぎて入り口を閉めようとしていると、いつもの姉弟が現れた。何だかいつもと様子が違う。

「おじちゃん、お願いします。」

「もう終わりだよ。それにここは、小さい子はおうちの人と一緒にないと入れないんだ。」

「でも……。これでやっと入れると思ったのに……。キリンさんやゾウさんに会えると思ったのに……。今日は弟の誕生日だから……。だから見せてやりたかったのに……。」

今にも泣き出さんばかりの女の子の手には、しっかりと入園料が握り締められていた。何か事情があって、親と一緒に来られないということは察しが付いた。

「そうか、そんなにキリンやゾウに会いたかったのか。よし、じゃ、おじさんが二人を特別に中に入れてあげよう。その代わり、なるべく早く見て戻るんだよ。もし、出口が分からなくなったら係の

きびすを返す
後戻りをする。引き返す。



人を探して、教えてもらいなさい。おじさんはそこで待っているからね。」

入園時間も過ぎていた。しかも小学生以下の子供は、保護者同伴でなければならないという園の規則を元さんが知らないはずがない。けれども、何日も二人の様子を見ていた元さんだった。元さんのそのときの判断に俺も異存はなかった。

二人を中に入れた元さんは、雑務を済ませてすぐに出口の方に回った。

「御来園のお客さまに閉園時刻のお知らせをいたします。五時をもちまして当園出口を閉門いたします。今日は、中央動物園に御来園、誠にありがとうございました。またのお越しをお待ち申し上げます。」

閉門十五分前の園内アナウンスだった。別れの曲が流れ、園内の人々は足早に出口へと向かう。出口事務所の前で待っていた元さんは、さっきから何度も自分の腕時計と、歩いてくる人々とに交互に視線を向けていた。

閉門時刻の五時、とうとう人の流れが止まり、もう誰も出てくる気配はない。今にも門は閉鎖されようとしている。それからが大変だった。出口の担当職員に二人の姉弟を入場させたいきさつを告げ、各部署の担当係員に内線電話での連絡が行き渡った。園内職員を挙げて一斉に二人の子供の捜索が始まったのだ。

十分、二十分、刻々と時間は経過する。事務所の中、祈るような気持ちで元さんは連絡を待った。一時間もたつただろうか、うつすらと辺りが暮れかかった頃、机の上の電話のベルが鳴った。

「見付かったか。」

園内の雑木林の中の小さな池で、遊んでいた二人を発見したとの報告だった。

数日後、事務所へ元さん宛てに一通の手紙が届いた。

その手紙を元さんは、何度も何度も繰り返し読んでいた。そして、俺にも読んで聞かせてくれたんだ。

前略

突然のお手紙で驚かれることと思います。お許しください。私は、先日そちらの動物園でお世話になりました二人の子供の母親でございます。その節は、皆様に大変な御迷惑をかけてしまいましたことを心より詫言ひ申し上げます。ことの成り行きの一部始終を知り、私の親としての不甲斐なさを反省させられるばかりでした。

実は、主人が今年に入って病気で倒れてから、私が働きに出るようになったのです。その間、あの子たちは、いつも私の帰りを夜遅くまで待っていることが多くなりました。弟の面倒を見ながら待っている幼い娘の姿を想像すると、どんなに大変だったか、寂しかったか。今更ながらに胸が痛みます。そんな折りに、子供から聞いたのが動物園の話でした。今度連れて行ってあげると言ってはみるものの、仕事の関係上、そんなめどすら立たない日々でした。

よほど中に入りたかったのでしょう。弟の誕生日だったあの日、娘は自分で貯めたお小遣いで、どうしても中に入らせてやりたかったのだと思います。

そんな子供の心を察して、中に入れてくださった温かいお気持ちに心から感謝いたします。自分たちの不始末は、子供ながらも分かっていたようでした。けれども、あの晩の二人のはしゃぎようは、長い間この家で見ることでできなかった光景だったのです。あの子たちの夢を大切に思ってください、私たち親子にひとときの幸福を与えてくださったあなた様のことは、一生忘れることはないでしょう。

本当にありがとうございました。

かしこ

異存
反対意見。

不甲斐ない
情けないさま。

不始末
他人に迷惑をかけるよう
な行いをする。また、
その行いやそのさま。

● 感じたこと、考えたこと。



ところが、喜びもつかの間、元さんは上司から呼び出された。しばらくして、戻ってきた元さんの手には、また一通の手紙が握り締められていた。それは、「懲戒処分」の通告だった。

今度の事件が上の方で問題になっていたのであった。元さんは停職処分となった。それにしても……。俺はどうしても納得しかなかった。あんなにあの子たちも母親も喜んでくれたじゃないか。それにここの従業員だって、みんな協力的だった。それなのに何でこんなことになるんだ。

元さんは、二通の手紙を机の上に並べて置いた。そしてそれを見比べながらこう言ったんだ。

「佐々木さん、子供たちに何事もなくてよかった。私の無責任な判断で、万が一事故にでもなっていたらと思うと……。この年になって初めて考えさせられることばかりです。この二通の手紙のお陰ですよ。また、新たな出発ができそうです。本当にお世話になりました。」

元さんの姿に失望の色はなかった。それどころか、晴れ晴れとした顔で身の回りを片付け始めたのだった。

その日をもって元さんは自ら職を辞し、この職場を去って行ったんだ。

今日のようなことがあると、元さんのあの日の言葉がよみがえってくるんだよ。

佐々木は、窓越しに園内を眺めながら最後の言葉をつぶやくように言った。

「御来園のお客さまに閉園時刻のお知らせをいたします。……」
ちようどそのとき、退園を促す園内アナウンスが流れ始めた。

懲戒処分
罰則の意味をもつ職務上の処分。

上の方
職場の幹部、上司。

国際スポーツの場でも

オリンピック憲章（抜粋）

オリンピズムの根本原則

1. オリンピズムは人生哲学であり、肉体と意志と知性の資質を高めて融合させた、均衡のとれた総体としての人間を目指すものである。スポーツを文化と教育と融合させることで、オリンピズムが求めるものは、努力のうちに見出される喜び、よい手本となる教育的価値、社会的責任、普遍的・基本的・倫理的諸原則の尊重に基づいた生き方の創造である。
4. スポーツを行うことは人権の一つである。すべての個人はいかなる種類の差別もなく、オリンピック精神によりスポーツを行う機会を与えられなければならない。それには、友情、連帯そしてフェアプレーの精神に基づく相互理解が求められる。
6. 人種、宗教、政治、性別、その他の理由に基づく国や個人に対する差別はいかなる形であれオリンピック・ムーブメントに属する事とは相容れない。



現代の企業でも

近年、会社として守るべき規範を定める企業が
増えている。

（例）〇〇会社企業行動憲章

- 一、より良い商品を作ります
- 一、環境保全に努めます
- 一、社会貢献活動を進めます

など



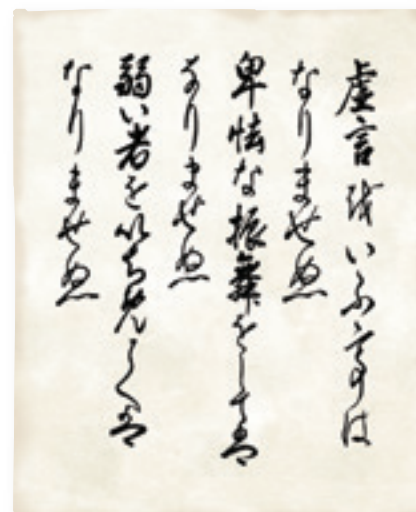
古くから

世界の歴史を遡ると、古代ヨーロッパでつくられ、発展したローマ法は、近代のヨーロッパの法に大きな影響を与え、今日の法の基礎となっている。

我が国の各地にも古くから伝わる社会規範があり、人々に尊重されてきた。

「仕の掟」（抜粋）
虚言をいう事は
なりませぬ
卑怯な振舞をしては
なりませぬ
弱い者をいじめては
なりませぬ

▲江戸時代の会津藩で、藩士としての心構えを定めたもの。子供たちは「仕の掟」を学び、藩士としてふさわしい人間になるため、学問や武術に励んだ。



法やきまりは、社会生活に秩序を与え、摩擦を少なくして個人の自由を保障するために作られたものである。私たちも、社会の一員として、法やきまりの意義やそれらを守るこの意味を考え、より良いものに発展させていこう。

一人一人が守るべきものがある